

---

# MOON-4 夜叉 4 < 2 7 >

みづき海斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

MOON - 4 夜叉 4 <27>

### 【Zコード】

Z3044Z

### 【作者名】

みづき海斗

### 【あらすじ】

MOON本編 最終話 第1章 第3話です。

1・月夜(がつや) - 3(前書き)

お暇な時にひらがな。

# 1・月夜（がつや） - 3

「一体、あの桜つて子の目的は何だ?」

アップル・パイを食べながら、早坂が言つた。『『帝王』を倒した。だけど、自分が『帝王』になろうとしない。居場所も不明。』

「桜が結界を強化してゐるからの。」

夜叉がF&Mのダージリンを飲みながら、

「居場所が判らぬ - - - ただ、新宿の何處かにいることは確かだ。あのおまち」

「でも、新宿も妙に『闇』の均衡が保たれてる - - - 九桜の側もそう『騒ぎ』を起こさなくなつてゐる。」

裕希が言つた。『桜が九桜の直系だから?』

それで和人を - - - 帝王を倒したから九桜の側が桜に統一されて

いる?』

「だつたら、何故尾崎秀久を狙つ?」

早坂の台詞に沈黙が走つた。

「何か」

和人が口火を切つた。『桜には秀以外に、もう一つ『目的』があるんだ。』

それも『帝王の座』ではない、『何か』が。』  
彼の切れ長の目が探るように、細まる。

『桜は』

夜叉は呟く様に言つた。『『帝王』にはなれぬ。』

『どういう事?』

裕希が隣の夜叉に問いかけた。

『桜は直系ではあるが、帝王程、闇を統べる力を持つていない。』

・ ・ ・ あの夜、榊と桜と出会つた時、我はそう感じた。桜の動きを榊が制している所がある。』

『榊つて何者なんだろう・・・・・・ううん、桜も榊も。昼間

でも出歩けるし、結界の中と外を自由に出入りできる。その力は何処から来るんだろう。」

「裕希の言う通りだ。」

和人は頷き、「何か『裏』がある。秀を奪ったのも、何か『目的』があるからだ。」

「秀さん・・・・・」

裕希はアップル・パイを食べる手を止め、

「秀さん、本当に記憶なくしちゃつたのかな。俺たちの事、何にも覚えてない。」

「そうだね、裕希くん。」

早坂が咳く。「裕希くんを襲つたりするしね。」

「呆れたわ。」

朝子は膨れて・・・しかし、寂しそうに、

「私たちの事、忘れちゃうなんて。」

夏風がバルコニーを吹き抜ける。

「何はともあれ」

夜叉は和人に視線を移し、「今度の満月が勝負の時じゃ。」

「だな。」

和人は頷く。「九桜の『復活』が近づいている。」

青空の下、団欒の一時は緊張へと変わつていった。九桜の『復活』の意味を誰もが知つていたから。

夜叉は目を細め、

「あの日と同じ闘いが始まる。」

『九桜は桜の樹の下に眠つている。』

決戦は・・・次の満月。

1・月夜(がつや) - 3(後書き)

今月で本編の連載は終わりそうですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3044n/>

---

MOON-4 夜叉 4 <27>

2010年10月21日23時17分発行